

## [COMMUNION]

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.html>E-mail: [comm.tko@nskkn.org](mailto:comm.tko@nskkn.org)

PHONE: 03-3433-0987

FAX: 03-3433-8678

Diocese Office



《平和メッセージ》

## 平和を創り上げる知恵と力を

主教 アンデレ 大畑 喜道

集団的自衛権の話や、憲法改正に向けて、今の世の中の動きは、非常に不穏なものになっています。戦前のことをご存知の方は同じ様なきな臭さを感じていると話してくださる方もあります。その中、6月初めに行われた東京同宗連総会（東京同和問題を考える宗教者連絡会総会）では、総会の後の記念講演で元ひめゆり学徒隊の語り部として活動されている与那覇百子さんの証言をお聴きしました。沖縄戦で、20万人にも及ぶ犠牲がありました。爆弾が雨あられと降ってくる中で、十五、六の少女たちも必死に協力させられ、そして多くの犠牲者が出ました。（詳しくは『生かされて生きて』道友社をお読みください）また6月の末には主教会が沖縄で開催されました。

今回は沖縄の現状を知るところで、1日半を平和学が、海から目の当たりにすると、まるで違った経験をする事ができました。静かで美しい海を眺めながら、どうして人間は神の思いとはまるで反対の方向へと動いていくのだろうか。自分たちは今



習に充てられました。辺野古・大浦湾に、日米政府はV字型滑走路を造る予定ですが、船を出していただき、海上からその現状を見せていただきます。何度かそばまで行ったことはありません

なにをすることができのだろうかかと、無力感さえ感じさせられました。「この素晴らしい自然が奪われてしまったいいのだろうか。大きな壁を作ってしまったいいのだろうか。いつまで自分たちは犠牲を強いられるのを我慢しなければならぬのか。」座り込みが続いている人々の必死の叫び声は今も耳の奥底に残っています。「お前は黙って見過ごしていいのか、今動かなかつたら取り返しがつかなくなる」そんな神様の大きなメッセージを感じました。武器を持ち、抑止力を持たなければ今の繁栄を保つことはできないのだと政治家たちはうそぶきます。東京の地にいれば、目をつぶって、犠牲になつていく人のことを思わないでいることもできません。小さな犠牲は大きな繁栄のために必要なのだという強い声に、教会は敗北することとはできません。小さなうめき声を神はお聞きになり、その人々のために立ち上がる。それが私たちの信仰であるはずで、自分たちの論理を優

先させるのではなく、神の思いを優先させていこうとする勇気を持ちましょう。

南風原の資料館を訪れた時に、こんな一文が目にとまりました。「戦争をしないために、わたしたちは話し合える。分かり合える。ゆるし合える。喜び合える。支え合える。そして私たちには戦争などせず平和を創り上げることのできる知恵と力が備わっている。」武器という力、抑止力というまやかしの力を信じるのではなく、私たちに祈りの大きな力があります。

神はいつも沈黙し続けているように感じてしまうことが多く、大きな声を出す人に迎合することを選んでしまう罪深さを持っています。誰が何と言おうとも、私たちが小さな者と連帯するときに、そこには神がいてくださって全能を發揮してくださることを信じ続けていくことができますように。どんな時にも諦めずに連帯していくことができます。勇気が与えられています。祈りの力、信仰の力を今こそ結集させてまいりましょう。

特集 信徒奉事者の学びから

「礼拝は私たちを変える」

司祭 高橋 顕

3月15日、29日、4月26日の3回、主教会聖堂活動委員会主催の信徒奉事者の学びが行われました。信徒奉事者は、礼拝において牧師に協力する務めを持ちますが、その礼拝というこについて学びを深める目的で今回の企画がなされ、3回シリーズの学びでしたが、1回と2回を担当しました。



「礼拝」はギリシア語で「レイトゥルギア (leitourgia)」といひます。これはギリシア語の「レイトス(公共に)」と「ヘルガゾマイ(仕える)」から成り立った言葉で、「レイトゥルギア」は本来「公共に仕えること」、「公共に奉仕すること」という意味でした。この「レイトゥルギア」の持つ意味から、「礼拝」は「共同体の行為」であり、自らが向上するための手だてや自分の徳を高めるための手段ではありません。そうではなく、「礼拝」は神と人に仕える共同体の行為であり、神に賛美と感謝を献げて神に仕え、集う人とすべての人に変化がもたらされていくものです。私たちが神を礼拝するとき、実際に

何をを行っているのかを、テキストとして選ばれた著書『礼拝はすべての人生を変えてゆく その働き、その大切さ』(ポール・ラッドショー、ピーター・モージャー編)を通して、改めて見つめ直してみる学びを行ないました。その日本版への序文で編者のポール・ラッドショーは、「心の底から礼拝を大切なものとして受け止めていけば、つまり、入念な準備のもとに礼拝がつつがなく行われ、会衆がそこに全身全霊をもって加わるよ

うなとき、まさに人生を変えてしまうような神との出会い、また他の人々との出会いがそこにもたらされます。」と述べています。そして本文では、あなたの行く礼拝を一面記事にするとしたら、どんな見出しがつくでしょうか?と、問ひかけ、本来礼拝とは、私たちの教会のあり方や信仰の出来事の「トップ記事を飾るようなもの」と語っています。まさに礼拝は、神を私たちに見せると同時に、私たちの姿を神に見せているものでもあります。そして「礼拝」は、私たちを、一人の人間として、また共同体として、変容

させます。まず、共に分かち合われる礼拝の中で、私たちは神に、またお互いに属する者へと変えられていきます。また、私たちは礼拝を通じて、神が望まれる者へと変えられていきます。そして、私たちは神を信じますが、その信仰は礼拝によって形作られることへと変えられていきます。「礼拝」は私たちを変えるのです。さらにこの著書では、「変わる、変える、変えられる」というキーワードで、礼拝という出来事の意味を説き明かしていきます。賛美する行為、神の私たちにへの出会い、言葉の役割、礼拝に参加するという行いの意味、聖餐という礼拝における「記念」の意味、「チーム・イエス」となぞらえる私たちの属するコミュニティ、祈りの場の意味、礼拝における聖書のメッセージについて、それぞれ本文で豊かな示唆が与えられます。また洗礼式、聖餐式、結婚式、葬送式、懺悔、代祷、礼拝における音楽、信経、朝夕の礼拝についての意義が述べられ、私たちが礼拝によって変えられていく出来事への思いが深めさせられます。本文の最後では、「変化をもたらす力を持った礼拝を中心に据えている教会は、伝道の教会となるのです。」と語られています。

今回の学びを通して、この世界を変えていく礼拝の働きとその大切さを改めて知り、その礼拝に牧師と協力して奉仕する信徒奉事者の使命を見つめました。「これからを考えながら」東北教区主教 加藤 博道 古代教会では、復活日に入信した人々のために主教が「秘義講話」を行ったと言われます。自分たちが経験した「秘儀(祭儀や儀式)」の意味を学び、それを通して「神の救いの計画―秘義」へと導くためのものでした。まず新約聖書において、キリストの体は一つであつても、その中には多様な働きがあると言われていることを心に留めましょう。「教師」「病気を癒す賜物を持つ者」「管理する者」等。コリント一第12章他)。中世を中心に教会には「マイナー・オーダー」として「悪魔払い」や「門番」などもありましたが、聖公会では16世紀の宗教改革で三職位のみとなりました。一方、日本でも伝道初期には伝道師や宣教師たちが大きな働きをします。そして正規の訓練を受けた伝道師の他に、さらに補佐的な「特志伝道師」が置かれるようになり、その特志伝道師が1968年に「信徒奉事者」という名称に改められました。東京教区は1994年頃から「信徒奉事者研

修プロジェクト」を開始、竹田真主教の『信徒奉事者とは』(1994年)や『信徒奉事者研修プロジェクト』の報告(1997年)などが出ており、その後にも熱心に取り組んでこられたと思えます。各教区でも種々の研修会が開催されています。

例えばアメリカ聖公会の関連する法規を見ますと、「認可を受けた信徒の奉仕職」という枠組みの中に、「信徒聖餐奉事者」(その中でも定時礼拝の中の聖杯奉持の場合と、病床を訪問し分餐する場合の2種)、「信徒奉事者」(レイ・リーダー)「朝・夕の礼拝の司式他、「信徒説教者」そして「伝道師」があり、それぞれに準備の課程や内容、任期が定められています(日本語呼称は仮)。

英国の場合でも朝・夕の礼拝の(赦罪を除く)司式、洗礼志願者の準備、未信者や教会から遠ざかろうとする者への導き、分餐の奉仕、結婚の予告や葬儀での務め等が規定されています。日本のかつての特志伝道師の内容に確かに近いものもあります。この他にかつて東京教区でも重視したことで聖書研究会の指導というよりはフアシリテート(全体を励まし進めていくこと)等があるでしょう。おそらく以上のような内容が今後積極的に考えられていくべきなのだろうと思えます。しかし

海外聖公会の規定を直輸入するのは簡単ですが、同時にそのための準備課程のあり方、管区や教区、教会全体の教育的な機能の充実がなければ、十分に責任ある仕組みとはならないでしょう。「礼拝において、牧師に協力する」(法規第63条)と言っても、礼拝と牧会、教会形成は切り離せません。病床訪問するにしても、礼拝の中で代祷を捧げるにしても、それは極めて牧会的な事柄でもあり、司祭との十分な連携や訓練も必要になってくることです。



現在、東京を始めとした大都市圏と、地方教区、教会の実情はますますかけ離れてきていると思います。在籍信徒500人、礼拝出席100人の教会と、地方の在籍も礼拝出席も数名という教会とでは信徒奉事者の役割も大きく異なるでしょう。そういう小教会(通常、定住牧師は不在)の場合には信徒が教会の大半の働きを担ってくれています。また現在では「み言葉の礼拝」の司式等にも頑張ってくれています。ですから、法規等で「信徒奉事者とは何か」と明確に位置づけることも大切ですが、それぞれの教会の置かれた地域、状況において、どう

それぞれの部分のまとまりを配慮していく、そういう役割を分かち合うことがないと、礼拝や教会の働きのすべてを聖職者が出来るわけではありませぬ。例えば聖書朗読をする人皆が信徒奉事者である必要はありません。人が、その調整役になる人は、皆がその人の役割を知っているという意味で、信徒奉事者として認可を受けているとか、アコライトも同様に、

この世界を変えていく礼拝の働きとその大切さを改めて知り、その礼拝に牧師と協力して奉仕する信徒奉事者の使命を見つめました。「これからを考えながら」東北教区主教 加藤 博道 古代教会では、復活日に入信した人々のために主教が「秘義講話」を行ったと言われます。自分たちが経験した「秘儀(祭儀や儀式)」の意味を学び、それを通して「神の救いの計画―秘義」へと導くためのものでした。まず新約聖書において、キリストの体は一つであつても、その中には多様な働きがあると言われていることを心に留めましょう。「教師」「病気を癒す賜物を持つ者」「管理する者」等。コリント一第12章他)。中世を中心に教会には「マイナー・オーダー」として「悪魔払い」や「門番」などもありましたが、聖公会では16世紀の宗教改革で三職位のみとなりました。一方、日本でも伝道初期には伝道師や宣教師たちが大きな働きをします。そして正規の訓練を受けた伝道師の他に、さらに補佐的な「特志伝道師」が置かれるようになり、その特志伝道師が1968年に「信徒奉事者」という名称に改められました。東京教区は1994年頃から「信徒奉事者研

そのまとめ役、世話役は信徒奉事者として、司祭の礼拝・牧会に関するチームを構成しているとか。 昨年10月に来日されたカナタベリ大主教ジャスティン・ウエルビー師からも「(日本では)信徒の奉仕職についてどうなっているか」という質問がありました。そして現在、英国では聖職志願者だけでなく、信徒の奉仕職も共に多様な仕方です。「ミックス・モード」の神学校が大変な活気を帯びてきているという紹介もありました。今後、(終身)執事のこと、伝道師のこと、神学教育のこと等と合わせて、研究が進められていく必要を感じています。 大震災でご自分も被災したケセン語訳聖書で知られる山浦玄嗣氏が被災地の人たちがこの苦難に対して引き受けて立ち上がっていく様子から「ヨウガス、引ぎ受ゲダ」という言葉を紹介しておられます(NHK「心の時代」)。「引き受ける」ことから何か新しい力と方向性が生まれてくるように思います。皆様もどうぞ「いえいえ、わたしなど」と言われずに、信徒奉事者でも「わかりました。引き受けましょう」と言っていたらいいと思います。それは司祭にとつても教会の仲間にとつても大きな励まし、力となるものであると信じています。



司祭と語ろう (その11)

司祭 佐々木 庸

今回は、東京諸聖徒教会、聖バルナバ教会(管理)で司牧されている佐々木庸司祭に、信徒の内ヶ崎昌子さん、樽谷(くれたに)雪さんからお話を伺っていただきました。

— まず先生が聖公会の信徒になられた経緯からお伺いします。

佐々木 私は生後2ヶ月で東京から福岡に行き、母はそこで聖公会の福岡の教会に行き始め洗礼を受けました。

— 赤ん坊の時から聖公会の中にいたわけですね。

佐々木 はい、それから東京に帰って、父と私は家の近くの阿佐ヶ谷聖ペテロ教会に行き、そこで洗礼を受けました。

— 子どもの頃は日曜学校に熱心に通っていましたか。

佐々木 いや、月1回くらいしか行かない怠け者の生徒でした。それから小学3年生の時に引越して家から歩いて3分くらいのところにある小金井聖公会に行くようになりました。でも当時は日曜学校がなく、大人の礼拝、しかも



文語の祈祷書でしたから、長く難しく、小学校高学年から中学校2年生ぐらいまで教会に行かなくなりまして。— それがまた教会に行くようになったのはどうしてですか。

佐々木 中学3年生の時に、司祭から教区の夏の合同キャンプが清里であるから行かないかと誘われて行ってみました。そこでほぼ同年代の人達と一緒に2泊3日の生活をす

る楽しい体験をしました。

— その体験が教会に戻るきっかけになったんですね。

佐々木 そうです。それから教会の青年会の人達に聖書の輪読など仲間に入れていただくようになり、嬉しくて教会に行くようになりました。

— 堅信を受けたのはいつですか。

佐々木 高校1年生の時です。その時に準備をしてくださったのが当時、立川にいら

した澤司祭でした。当時、小金井の牧師だった矢崎司祭がちょうど大学の調査で旅行中でしたので堅信準備は澤司祭がしてくださったのです。

— 神学院に行きたいと思っただのはいつ頃でしょう。

佐々木 堅信の学びの中で「やっぱりイエス様のことを人に伝えていくことは素晴らしいことだ」と思うようになり、自分に力がないことは棚に上げて「そういうことのために勉強してみたいな」と思ったのがきっかけですね。

— 先生にとって模範となる聖職の方はいらっしゃいましたか。

佐々木 やはり矢崎司祭ですね。当時、癌が見つかり人工肛門を付けられていたのですが、昔のことですから非常に大変で不自由されていたと思うのですがそれを表に出さず、礼拝は最後に入院されるその週の日曜日、亡くなる直前までされていました。聖職とは最期の最期まで神様と人に仕えるものだということを教えていただきました。

— 私は大人になってからク

うか。以前、バグパイプを演奏されるとお聞きしましたが。

佐々木 バグパイプは持っていませんが、吹けないですね。子どもの時に見た戦争映画で、イギリス軍が上陸する時、バグパイパーが先頭にたつて

毅然と進んでいく姿を見て興味を持ちました。もちろん戦争の楽器ではなく、スコット



ランドの羊飼いが、荒涼とした高地で朗々と吹く音色がい

いんですね。

— 先生の奥様は音楽の専門家です。先生は九州に行かれていましたが、どのようなところで響きあわれたのですか。

佐々木 不思議な縁で、後でわかったことですが両方の祖父の代から関西で近くに住んでいたらしく、私は祖母の名前をそのままもらって庸な

「司祭のこの一冊」

『良寛さんのうた』

田中和雄編

童話屋

司祭 佐々木道人

日の暮れるのを惜しみ、里の子供たちと手毬をつき遊ぶお坊さんのことを、「良寛さん」として多くの日本人が親しく心に抱いている。

「この里に、てまりつきつつ子どもらと、遊ぶ春日は、暮れずともよし」また書をたしなむ人からは、独特で美しい書体の主として敬慕されている。しかしそれ以上のことは、あまり知られていないのが実情かもしれない。

この小さな本、『良寛さんのうた』は良寛の漢詩、短歌、俳句、手紙などから

真心尼が良寛死後編纂した歌集「蓮の露」などから、55編を選んだ詞華集(アンソロジー)である。」

〈以下・編者後書きから〉

わたし自身、人からいただいたこの可愛い本によって、良寛の多様な面を垣間見させていただいた。そのような意味で「良寛さんのうた」は彼自身の作品による格好の入門書と言えるかもしれない。みずから選層をだいぶ過ぎ、幼い子供に触れて救われる思いを深くしている現在、改めて尊敬できる江戸時代の日本人



しかも愛すべき「良寛さん」の肉声、さみしき、痛み、悔悟、憧憬、喜びを、親しく知ることができ、大変慰められた。

まず彼の辞世の句が良い。「うらを見せ、おもてを見せ、散るもみじ」

良寛は人生の最晩年、真心尼という互いに相聞歌を交わした若い尼僧に看取られて、74年の生涯を終えるのだが、その時の句である。看取られるとは、下の世話まで受けることである。それを含めて、自他を慈しみながら見通す句であろう。そしてさらに、相手のことを想い、形見をのこすとしたら、

という趣旨の情愛のこもった歌が次のものである。

「かたみとて、なにかのこさむ春は花山ほととぎす、秋はもみじば」

そして一方、忘れられないのは、痛烈な「自戒のこぼ」という一連の文章で、「こころよからぬものは、」

「こころよからぬものは、悟りくさき話 ふしぎばなし、神仏のこころがろろしくさする…」

青年期の厳しい修行を経て、晩年

托鉢しながら、子供とあそび、人の世話になりつつ、恋もした禅僧の、面目躍如たる「自戒のこぼ」である。

レスチナ人の土地にいきなりイスラエル軍が入って来てそこにユダヤ人のための入植地を作り、8メートルもの分離壁を建てる。その結果、自分の畑や病院、学校に行けなくなってしまう。

そんなパレスチナの友にあって、旧約聖書のイスラエルの民が、「神が与えると約束してくださった」パレスチナ地方に侵入し、土地を奪い、逆らう者は皆殺しにしていくという聖書の記述は、逐語霊感的には受け取られない。「土地の約束」は、古代イスラエルの民が、土地も持たず虐げられたさすらいの移住者だった時にのみ有効な信仰であり希望である。イスラエルが曲がりなりにも国土を確保した時、「土地の約束」に代わり正義と公平を神は要求する。パレスチナの友は、そういった聖書の書かれた時代背景を見極めながら聖書を読む。その際イエスの思想は、聖書全体を理解するフィルターとなる。

旧約聖書の読み方(2)

司祭 神崎 雄二

パレスチナの友が教える

「聖書を開いて」 ⑭

民が角笛の音を聞いて、一斉に開の声をあげると、城壁が崩れ落ち、民はそれぞれ、その場から町に突入し、この町を占領した。彼らは、男も女も、若者も老人も、また牛、羊ろばに至るまで町にあるものはことごとく剣にかけて滅ぼし尽くした。 ヨシュア記6・20 b、21



私たちの教会 [13]

# ようこそ聖パウロ教会へ



東急東横線の渋谷に向かう右側の車窓から、祐天寺駅に着く直前に鐘楼の十字架と白亜の壁に黒々と日本聖公会聖パウロ教会の文字が目に入ります。1974年（昭和49年）1月15日、創立後6番目の教会として渋谷宇田川町から移転し40年を経て現在に至っています。

1876年（明治9年）、英国CMS宣教師ジョン・パイパー師によって築地居留地で宣教を開始、この年の6月4日聖霊降臨日に最初の受洗者があり、この日をもって聖パウロ教会の創立記念日とされました。

今年の聖霊降臨日は6月8日、教会では創立138周年記念日として様々な行事を行いました。目玉がオープンチャーチで、これは毎年創立記念日の定例行事となっています。教会



パウロ教会の特色の一つは聖堂のパイプオルガンの。著名なオルガンビルダーの辻宏氏の作品で1976年（昭和51年）6月の創立百周年記念日に奉献されました。18世紀の北ドイツの

を外部に開放し、食事を共にし、パイプオルガンの演奏を行い、ミニバザーを開くなど教会を挙げて近隣の方々と交え賑やかに午後の一と時を過ごしました。

オルガンをモデルに制作されたものですが、40年近く経ってパイプ等に傷みが出てきたため、10年もの準備を経て2012年に大規模なオーバーホールを行いました。

辻氏の弟子で、現在スウェーデンに在住しオルガンの研究者である横田宗隆氏をコンサルタントに招いての修復作業でしたが、ヨーロッパの古典様式を踏襲した美しい響きを持ったオルガンに生まれ変わりました。主日礼拝を初め毎月のランチタイムコンサートなどで活躍しています。

熱心な先生方や保護者の方に支えられ、少子化の中で頑張っている日曜学校も健在。聖歌隊は毎月第1主日にアンセム奉唱をはじめ礼拝で会衆をリードする働きを、毎月欠かさず開かれる壮年会（男性）とめぐみ会（女性）の例会と、主日ごとの活動など信徒の働きも活発に行われている聖パウロ教会です。

（岡野 峻）

## 講演

「隣人を愛す道は  
主イエスの道」

司祭 半田ウイリアムズ郁子

英国国教会司祭

6月21日、聖バルナバ教会ホールで半田ウイリアムズ郁子司祭の講演会が開かれた。主催は女性が教会を考える会・東京。彼女は東京生まれ、日本キリスト教団で幼児洗礼を受け、国際基督教大学、ウェスタン・ミシガン大学修士課程修了。イギリス人の夫君が北イングランドのリーズ大学の日本学教授であるため、英国国教会の教会員となり、3人の子育ての傍ら教会学校の教師などの働きをする。1988年のランベス会議日本語訳チームに参加、その後、神学の学びと訓練を経て



2008年に司祭按手。英国人元捕虜との和解のための礼拝で奉仕。リーズの教会で司祭として働き、リーズ大病院のチャプレンとなる。

現在、夫君の仕事で来日、日本基督教団武蔵野教会で協力牧師として働いている。

講演会では、そんな彼女の半生と司祭の働きの一端が語られた。以下にその一部を紹介させていただきます。

ある時病棟のナースから『あの患者さんは誰かに何か話したいんじゃないかと思うからちよっと声をかけてみてください』と言われ、声をかけました。私の牧師の格好を見て『いや自分は宗教的ではないから』と断られました。『私にとってはおあなたが宗教的でなくても構いませんよ。今日のお加減はいかがですか、少しお喋りしませんか？』と話を始めました。椅子を持ってきてベッドの横に座って話を聞いていると『自分は食道癌の大きな手術を受けて回復が大変だった。抗がん治療も苦しくてもうだめじゃないかと思つたがどうにかここまでこられた。退院も近くに迫っている。嬉しいはずなのに何か心にモヤモヤが残っている。せつかく退院を喜んでくれている家族にもそんな

話ではできないし、看護師さんに言ってもわかってもらえないのではないか』と話されました。こちらはただ聞いていただけなのですが、そのうち『どうして自分が生きているのか、生かされているのか。とても今更ごめんさいとは言えない過去に傷つけてしまった人達のことを思い出されるようになった。それをどうしたらいいのだろうか』と話されました。ついさっき『自分は宗教的ではないから』と言った彼が『自分は毎晩祈りを欠かしたことはない』と言われ私は驚きました。『じやいろいろな思いの祈りを聞いてくれる神様がいてくださって良かったですね』と言うと彼はもう涙なのです。『一緒に祈りましょうか』と言うと『ぜひ祈ってくれ』とのこと。最初の断りを真に受けて彼と話をしなければ起こらなかった会話です。そして彼が言い表したことも表現できない深いことも全てとりなしてくださる神様が共にいてくださることを思い起こして一緒に祈



り、帰る時には私が不思議な恵みに満たされて神様の愛が降ってくる実感がありました。そのような体験が病院のチャプレンとしての毎日なのですが、これはチャプレンだけの務めではないはず。信仰を与えられイエス様に従って生きるという私達一人一人が弟子なのです。一人一人が使者として【互いに愛しあいなさい】という教えのもとで生きることによって神様からの祝福が与えられる恵みなのだと思えます。

また、あるクリスマスイブ、昼間に訪ねたご老人がいました。自宅で病気の奥さまの看護をしているうちに自分の体調が悪くなって入院されている方でした。その方と話をした後、クリスマスキャロルをいろいろな病棟で歌って帰る時に、そのご老人のことが気になってもう一度訪ねまし

た。昼間にお会いした時には聖餐はしませんでした。『クリスマスイブだし道具も持ってきていますから聖餐をどうですか』と言うと、とても喜ばれて一緒に聖餐に与り一緒に祈って帰りました。後日私の仲間が彼のところに向いた折りに、実は彼は日本軍の元捕虜としての経験があり『今まで日本人と一切関わりを持つことなど考えられない、日本製の物にも絶対触らないとしていたが、突然現れたチャプレンが日本人と一緒に聖餐を分け合い、祈ってくれた。それを通して自分は今もう日本人を憎むことをやめた。そこからやっと解放された』との証を聞いて驚き、そして喜び私に伝えてくれました。それも驚くような神様の恵みでした。

私の話はたまたまと言つていいかもしれない小さな出会いですが一つ一つの出会いに神様の働きがあることを体験させていただきました。

（文責 広報委員会）

## 《信徒リレーエッセイ》

教会 と 私

池袋聖公会  
糟谷 珠子

これまで過ぎた道を振り返ります時、愚かな私は、たびたび人さまに申し訳ないことを致しました。教会に行つて、主のみ前でお詫びを致します。そうして聖餐をいただきます。主に在る兄弟姉妹の皆様は、お交わりの中に温かく迎えて下さいました。「主の家」である教会の中で、主の平和に包まれて心をゆっくり休ませて頂きます。又、苦しい時には、皆様の沢山のお祈りで助けて頂きました。

この春、私が病気を致しました時、皆様の大きなお祈りの力をいただきまして主の御憐れみによって無事、手術を終えることが出来ました。そうして新しい命をいただきました。イエス様、有難うございます。

90才の弱い歩みでございますが、終わりの日まで、主の道を歩けますように、イエス様、どうぞお導き下さいませ。すべてのことを主に感謝いたします。

アーメン



日本聖公会

第61(定期)総会報告

信徒代議員 松田正人

5月27日～29日に開催された総会の報告をいたします。

主教議員11人、聖職代議員

2人×11教区、

信徒代議員2人

×11教区(他に

事務局およびス

タッフ)の2年

に一度の大会議

です。報告29件、議案35件(一

部、修正動議などを経たもの

もありすべて承認・可決)と

盛り沢山。独断的に3件に

絞って報告いたします。

1、「日本聖公会祈祷書一部

改正の件」

主教会と礼拝委員会の共同

提案によるこの議案は祈祷書

のルブリックを改め、人は洗

礼によって神の民として迎え

入れられる。その後主教の祈

りと按手(堅信)を通し聖霊

により日々強められ、この世

に遣わされることとなる。洗

礼を受けた者は陪餐をするこ

とができる。とすることに協

賛を求めるという重要なもの



です。

「陪餐許可と堅信式とを

分けること」という勧告は

1968年のランベス会議に

おいてすでになされていた事

項だそうです。

法憲法規上祈祷

書の改訂決議は一

回の総会では不可

能です。基本

的な賛同を得て、

次回総会にて確定

しようとするものです。この

議案には修正動議によって文

言の修正が図られ可決決定し

ました。そして次回総会まで

に詰めなければならぬこと

(堅信の意味づけと学びの推

進、他教派からの転入者の取

り扱い、初陪餐の時期、関連

法規の整備など)は多くあり

ますので、続いて議論された

第21号議案で「祈祷書改正準

備委員会設置の件」が可決さ

れ、2016年の定期総会に

備えることとなりました。

2、「女性の聖職者に関わる

諸問題についての調整と検

証・提言作成のための特別委

員会」設置の件

1998年の総会で女性司

祭の実現に伴うガイドライン

が可決承認されていますが、

以来18年、未だ女性司祭の誕

生していない教区が存在する

中で、ガイドラインの本来の

狙いである、「女性司祭の司

祭按手に対する賛否にかかわ

らず、その信仰的良心が尊重

されること」が、十分に機能

を発揮できていないのではな

いかという疑問からの提案で

した。時は流れ、実体化も進

んでいる中で、正式に他教区

の主教により按手された女性

司祭がその正当性を否定され

るようなことなどを防ぐため

にも、諸問題に対応できる特

別委員会を設置しようという

議案でした。(可決)

3、「ヘイトクライム・ヘイ

トスピーチの根絶と真の多民

族・多文化共生社会の創造を

求める日本聖公会の立場を」

採択する件(タイトルを一部

省略)

「ヘイトスピーチ」を中心

とした人種憎悪犯罪が多発し

ています。攻撃対象は在日韓

国朝鮮人、在日アジア人、被

差別部落の人々、沖縄の人々、

広島・長崎の被爆者、アイヌ

民族、性的少数者と広がって

います。

こうした差別的攻撃は、国

連の人種差別撤廃条約の批准

を例に出すまでもなく、私た

ちクリスチャンのもつとも抵

抗しなければならぬことだ

と信じます。日本聖公会の立

場を表明することを、採択し

ました。

(真光教会信徒)

宣教は難しい」と書きま

したが、あるキリスト教学校

に勤められていた信徒の方が

ら、『私たちは宣教に繋がる働

きをしています』という丁寧

なお手紙をいただきました。

ミッション・スクールとい

う言葉を使わなくなっても、

それぞれの学校ではキリスト

を伝えていっているのだと嬉しく思

いました。

また、原発Q&Aは管区か

ら詳しい冊子が出されました

ので、連載は中止いたします。

編集後記

前号の編集後記で「学校で

次回

秋号 10月26日発行予定

ちよつと聖書、ときどきユーモア(十四)

1. キャンプに参加しない理由

牧師「あなたは、いつも教会のキャンプに参加されませ

んね」

信徒「すみません、妻の了解が得られないもので」

牧師「なぜ、奥さんは了解しないのですか」

信徒「どうも、寝言で牧師の悪口を言うらしいんです」

2. 現代の蛇の誘惑

信徒A「いつの時代も女は蛇の誘惑に弱いよね。そして、

いつも男を巻き込むんだ」

信徒B「それって創世記のはなしだろ」

信徒A「違うよ、この間、女房と買い物に行ったら、そこ

でヘビ皮の高いバッグを買わされたんだ」

3. インターネットで礼拝

信徒1「最近は便利になったよね、教会に行かなくても

家においてインターネットですきなときに礼拝できるん

だから」

信徒2「それは凄い、で、その礼拝は、つまらない説教

の時とはぼしてもいいのかい」